

薬理学Ⅳ

Pharmacology Ⅳ

薬：E1-04322MY

医療科目 3年／後期 1.5単位 必修科目

科目責任者 野澤 玲子(薬理学研究室)

■教育目的

本講では、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用・機序を中心として講義し、それらの治療薬の有効性・安全性の薬理的基盤を学習していく。【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-③】

■学習到達目標

代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。(知識)
薬物の相互作用、依存性・耐性、副作用、毒性について具体例を挙げて説明できる。(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：講義テキスト・参考書の該当箇所に目を通しておく(30分以上)。

復習：講義テキスト・参考書・演習問題等を活用し、講義内容を復習するとともに、関連事項について調べ知識を整理する(30分以上)。

■授業形態

講義

■授業内容

下記の項目に関して、薬物名、薬物の作用機序、個々の薬物の特徴などを説明する。

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	病原微生物と薬	抗菌薬、主要な抗菌薬の耐性獲得機構	E2 (7)-①-1, ②-1
2	//	抗原虫・寄生虫薬、抗真菌薬	E2 (7)-⑤-1、⑥-1,2
3	//	抗ウイルス薬	E2 (7)-④-1～5、⑩-1
4	代謝系疾患の薬	糖尿病治療薬	E2 (5)-①-1, ③-1
5	//	脂質異常症治療薬	E2 (5)-①-2, ③-1
6	//	高尿酸血症・痛風治療薬	E2 (5)-①-3, ③-1
7	//	骨粗鬆症治療薬	E2 (2)-③-2、④-1
8	悪性新生物(がん)と薬	抗悪性腫瘍薬 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構	E2 (7)-⑧-1,2、⑩-1
9	//	抗腫瘍ホルモン関連薬	E2 (7)-⑧-1、⑩-1
10	//	分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬	E2 (7)-⑧-1、⑩-1
11	//	抗悪性腫瘍薬の主な副作用	E2 (7)-⑧-3
12、13	感覚器・皮膚の疾患と薬	眼疾患の薬 耳鼻咽喉疾患の薬 皮膚疾患の薬	E2 (6)
14、15	医薬品の安全性	薬物相互作用、薬物依存性・耐性 有害事象、副作用、毒性	E1 (1)-①-8,9 E1 (4)-①-1～4

■授業分担者

野澤 玲子

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

演習問題を解いて理解度を確認し、解説等によりフィードバックを行う。

期末試験成績(100%)で評価をする。

■教科書

講義プリント

■参考書

『新 図解表説 薬理学・薬物治療学』菱沼 滋 著(エムスリーエデュケーション)

『薬がみえる vol.2、vol.3』(メディックメディア)

『NEW 薬理学』田中 千賀子 他 編著(南江堂)

『グッドマン・ギルマン薬理書(上・下)』高折 修二 他 監訳(廣川書店)